
2024年度 第1四半期業績

決算説明資料

地球の恵みを、社会の望みに。



2024年8月8日

エア・ウォーター株式会社

2024年度 第1四半期決算説明スクリプト

説明者

代表取締役社長・COO

松林 良祐

取締役 執行役員 女性活躍推進、人事、広報・IR担当

井上 喜久栄

理事 広報・IR推進室長

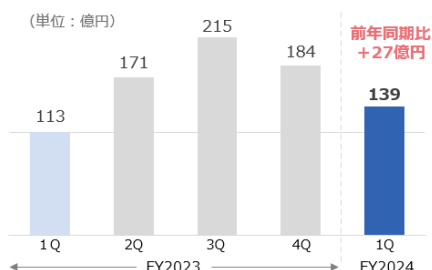
植杉 文

2024年8月8日

2024年度 第1四半期業績のポイント

(単位：億円)	23年度1Q	24年度1Q	増減	
			金額	率
売上収益	2,300	2,459	+159	106.9%
営業利益	113	139	+27	123.8%
親会社所有者帰属 四半期利益	71	94	+22	131.1%
営業利益率	4.9%	5.7%	+0.8pt	—

営業利益 四半期別推移



第1四半期実績

- 売上収益は2,459億円と1Qでの過去最高を更新。営業利益は139億円と前年同期比27億円の増益。
- 半導体市況の停滞や円安影響など不透明な事業環境が続く中、全セグメントにおいて前年同期比で増益。
- 国内産業ガスの価格マネジメントが進展したほか、海外事業の拡大が寄与。

2025年3月期 連結業績予想

- 前回公表数値からの修正なし。

説明者：代表取締役社長・COO 松林 良祐

本日は、エア・ウォーターの決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

説明に先立ちまして、先ほど九州で発生した地震に関する影響について、ご報告をさせていただきます。被害に遭われた方がいらっしゃいましたら、お見舞い申し上げます。弊社の状況について、現在、報告を受けている限りは、大きな被害は出ておらず、通常のオペレーションを継続しています。一部、充填工場でシリンダーが転倒したという報告がございますが、それ以上の被害は確認されていません。

それでは、早速ですが、私から本決算の全体概況について、説明をさせていただきます。資料の4ページをご覧ください。

2024年度第1四半期の業績は、売上収益は2,459億円（前年同期比106.9%）、営業利益は139億円（同123.8%）、親会社所有者帰属利益は94億円（同131.1%）という結果になりました。第1四半期の売上収益としては過去最高を更新しました。

営業利益は半導体市況の停滞や円安影響など不透明な事業環境が継続する中、全セグメントにおいて前年同期で増益を達成しました。

特に、国内の産業ガスの価格マネジメントの取り組みや、海外事業の拡大が営業利益の拡大に貢献しました。

営業利益の四半期別推移のグラフでお示している通り、年間の中で最も利益水準が低い第1四半期において139億円の営業利益を計上し、着実なスタートを切れたと認識しています。

引き続き、不透明な環境が続きますが、事業環境を見極めながらグループを上げて、事業機会の獲得と価格マネジメントや合理化・効率化に取り組んでいきます。

なお、2025年3月期の連結業績予想については、前回発表数値から修正はございません。



5 ページをご覧ください。

当社グループの成長戦略について、5 月の通期決算発表でご説明した資料の再掲となります。

少子高齢化の進展など、我が国の社会・経済環境の変化を踏まえ、今後、国内の既存事業を取り巻く市場環境が大きく拡大していくことは見込みにくいと考えております。

このような中、産業ガスを中心とする国内既存事業の収益力強化を図り、安定的なキャッシュ・フローの基盤としつつ、成長が見込まれる海外での事業拡大や、国内における半導体を中心としたエレクトロニクス需要に関連した投資を進めています。

また、カーボンニュートラルや将来の食料不足などの社会課題解決を通じた新事業創出にも注力しています。

また、グループの中核会社が一体となって、ヒト・モノ・カネや技術といった経営資源の最適配分を図る「グループ一体経営」を推進するとともに、資本効率の改善・向上に取り組んでおります。

インド（海外事業）



インド・デリー郊外※に
シリンダーガス充填工場が稼働

※ハリヤナ州 ファリダバード

- Air Water India のガス製造・供給拠点の空白地であった北部エリアにシリンダーガス充填工場が稼働
- 面的なガス供給ネットワークを拡充することで、市場開拓を強化し、旺盛なガス需要を取り込む

デジタル（半導体）



エア・ウォーター・マテリアル㈱
北九州市に半導体材料の
資源リサイクル工場の建設を開始

- 溶剤リサイクルの国内トップ企業の三和油化工業㈱との合併会社を設立（当社グループの出資比率は35%）
- 半導体工場の新増設が相次ぐ九州地方で、使用済み薬品・廃棄物の処理・再資源化需要を取り込む

水素（カーボンニュートラル）



エア・ウォーター・
グリーンデザイン㈱
名古屋市に水素ガス製造拠点を新設

- 東海エリアにおける工業用の水素需要及び将来のエネルギー需要としての高まりに対応
- 水素ガス発生装置「VHR※」と圧縮水素ガス製造拠点を設置により、同エリアの供給量を約2倍に拡充

※「VHR」は、世界最高水準の効率で、天然ガスから水素ガスを発生させることができる自社開発装置

© AIR WATER INC. | 6

直近のトピックスを簡単にご紹介します。

1 つ目は海外展開です。

海外市場において高い成長が見込めるインドでは、「産業ガスの製造・供給インフラの拡充」をベース戦略としながら、「製鉄所向けオンサイトガス供給」の案件獲得により、飛躍的な成長を目指しています。空白地であった北部・デリー近郊のファリダバードにシリンダー充填工場を建設し、本年4月に稼働させました。自動車製造などの溶接に使用される産業ガスの需要が北部・南部・西部で伸長しており、今後も市場開拓を強化してまいります。

2 つ目はエレクトロニクス関連の取り組みです。

化学品の専門商社であるエア・ウォーター・マテリアルは、溶剤リサイクルの国内トップ企業の三和油化工業株式会社と半導体材料の再資源化を行う新工場を北九州市に建設します。九州では、T S M C の半導体工場が立地するなど、半導体工場への増強投資が進められています。これらの稼働に伴いより多くの化学材料が使用され、多量の産業廃棄物が発生すると予測されています。こうした半導体工場から出る溶剤やリン酸など使用済みの化学品を回収し、新工場で分離・精製し、新品同等の純度で製品に加工するほか、再生できないものは燃料として販売することで、半導体サプライチェーンの強靱化と資源リサイクルに寄与します。このように、静脈資源の回収・再資源化は重要かつ社会に貢献できる事業であり、産業ガス供給だけでなく、半導体業界に幅広い領域でユーザーを支援できることが、エア・ウォーターグループの強みです。

3 つ目は、カーボンニュートラルの取り組みです。

炭酸ガスと水素ガスの製造・販売を行うグループ2社を統合し、本年4月に新設したエア・ウォーター・グリーンデザインは、名古屋市に水素製造拠点を新設しました。当社グループは、水素ガス製造装置「VHR」を全国各地に配備することで、熱処理や半導体製造など既存用途の取り込みに加え、将来の水素エネルギーとしての需要増に対応していく方針です。本プラントの稼働により、東海地区では供給体制を約2倍に拡充することとなり、今後も自治体や産業界と連携しながら、カーボンニュートラル市場に向けた事業展開を加速してまいります。

(単位：億円)	23年度1Q	24年度1Q	増減	
			金額	率
売上収益	2,300	2,459	+159	106.9%
売上原価	▲1,822	▲1,933	▲111	
売上総利益	479	527	+48	110.1%
販売費・一般管理費	▲377	▲399	▲22	
その他の収益・費用	6	6	+0	
持分法による投資利益	5	5	+0	
営業利益	113	139	+27	123.8%
金融収益・費用	2	4	+1	
税引前四半期利益	115	143	+28	124.5%
法人所得税費用	▲41	▲47	▲6	
非継続事業からの四半期利益(▲は損失)	▲0	▲0	▲0	
四半期利益	74	96	+23	130.6%
親会社の所有者に帰属する利益	71	94	+22	131.1%
非支配持分	2	3	+0	
営業利益率	4.9%	5.7%		
基本的1株当たり四半期利益 ※	31.39円	41.01円		

※ 基本的1株当たり四半期利益は
期中平均発行株式数により算出しています。

説明者：理事 広報・IR推進室長 植杉 文

続きまして、詳細に関して、広報・IRの植杉よりご説明いたします。

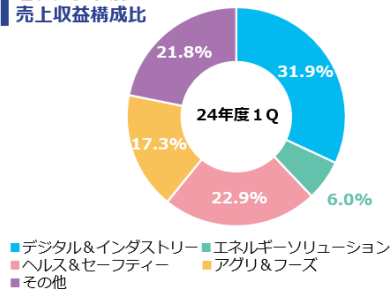
説明資料の8ページをご覧ください。

まず全体数値ですが、先ほど社長の松林からご説明申し上げました通り、売上収益が159億円のプラス、営業利益が27億円のプラスで増収増益となりました。

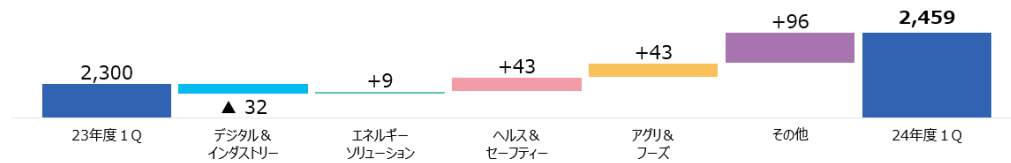
営業利益率は5.7%と前年から0.8ポイント増加しました。

(単位：億円)

グループ	23年度1Q	24年度1Q	増減	
			金額	率
デジタル&インダストリー	817	785	▲32	96.1%
エネルギーソリューション	138	147	+9	106.7%
ヘルス&セーフティ	521	564	+43	108.2%
アグリ&フーズ	383	426	+43	111.2%
その他	441	537	+96	121.9%
合計	2,300	2,459	+159	106.9%

セグメント別
売上収益構成比

(単位：億円)

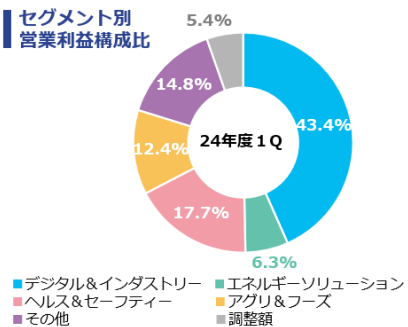


© AIR WATER INC. | 9

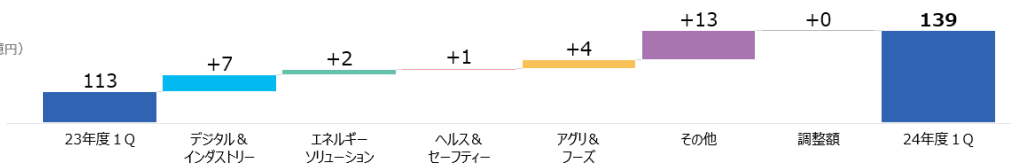
(単位：億円)

グループ	23年度1Q	24年度1Q	増減	
			金額	率
デジタル&インダストリー	53	60	+7	114.0%
エネルギーソリューション	7	9	+2	132.1%
ヘルス&セーフティ	24	25	+1	102.7%
アグリ&フーズ	14	17	+4	127.8%
その他	8	21	+13	253.7%
調整額※	7	7	+0	103.2%
合計	113	139	+27	123.8%

※調整額：セグメント間取引消去および各セグメントに配分していない当社本社部門の損益

セグメント別
営業利益構成比

(単位：億円)



© AIR WATER INC. | 10

続きましてセグメント別のご説明をいたします。

資料の9ページ、10ページをご覧ください。

売上収益は、デジタル&インダストリーを除く全てのセグメントで増収となりました。

営業利益は、全てのセグメントで増益となりました。

(単位：億円)	23年度1Q	24年度1Q	増減	前期比
売上収益	817	785	▲32	96.1%
営業利益	53	60	+7	114.0%
営業利益率	6.5%	7.7%	+1.2pt	—

主な増減要因

売上収益 ▲32億円

- 【－】 ・ オンサイトガス供給の販売単価の下落 ●★
・ 基礎化学品の販売減 ◆

- 【＋】 ・ 産業ガスの価格改定 ●

営業利益 +7億円

- 【＋】 ・ 産業ガスの価格改定 ●
・ エレクトロニクス向けオンサイトガス販売増 ★

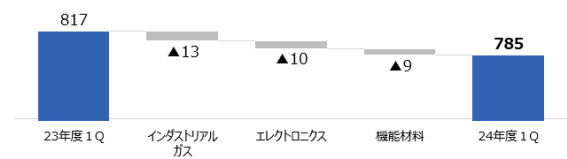
- 【－】 ・ 半導体製造装置向けＯリングの販売減 ★

●インダストリアルガス ★エレクトロニクス ◆機能材料

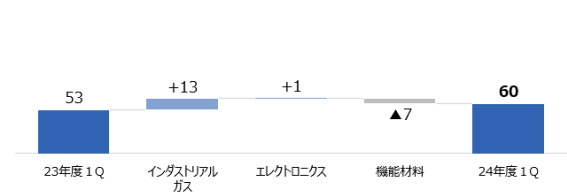
ユニット別増減

(単位：億円)

売上収益



営業利益



© AIR WATER INC. | 11

続きましてセグメントごとにご説明いたします。

デジタル&インダストリーの売上収益は785億円で32億円の減収、営業利益は60億円で7億円の増益となりました。

インダストリアルガス事業は、前年度から継続して取り組んだ価格改定効果による増収はあったものの、鉄鋼向けのオンサイトガス供給における販売単価が下落したことで、売上収益は前年を下回りました。

産業ガスの製造コストの過半を占める電力コストは、1年前と比べると低下しています。鉄鋼を中心とした大型オンサイト工場は、電力コストに連動して単価を決定する契約のため、売上が減少しています。

一方、利益面ではこのような状況の中、価格改定に加えて、製造・供給体制などのコストコントロールを含めた価格マネジメントが進展し、増益となりました。

エレクトロニクス事業は、国内で半導体・デジタル産業における生産拠点の増強が進む中、新規取引先の開拓や大型プラントの設備投資を着実に進めており、ガス供給は順調に推移しました。一方で、市況の停滞が続いており、ガス精製装置等の機器・装置の納入は伸び悩みました。

機能材料事業は、無水フタル酸をはじめとした基礎化学品の販売が低調に推移したこと、半導体製造装置向けシール材のＯリングの販売が減少したことなどから、減収減益となりました。

(単位：億円)	23年度1Q	24年度1Q	増減	前期比
売上収益	138	147	+9	106.7%
営業利益	7	9	+2	132.1%
営業利益率	4.8%	6.0%	+1.2pt	—

主な増減要因

売上収益 +9 億円

【+】 ・ 市況運動によるLPガスの販売価格上昇 ●

営業利益 +2 億円

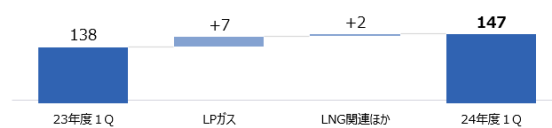
【+】 ・ 前年度の在庫評価影響の解消 ●

● LPガス ◆ LNG関連他

ユニット別増減

(単位：億円)

売上収益



営業利益



© AIR WATER INC. | 12

エネルギーソリューションの売上収益は147億円で9億円の増収、営業利益は9億円で2億円の増益となりました。

売上収益は、北海道を中心とした家庭向けLPガスの販売単価が、市場の基準取引価格であるCP価格に連動して上昇したことで、前年同期を上回りました。また、顧客に対して重油からLNGへの燃料転換を積極的に進めたほか、牛ふん尿由来の液化バイオメタンの販売を5月から開始するなど、カーボンニュートラルに向けた提案も進めています。

営業利益は、前年同期に計上したLPガスの在庫評価損失の影響がなくなったことにより増益となりました。

(単位：億円)	23年度1Q	24年度1Q	増減	前期比
売上収益	521	564	+43	108.2%
営業利益	24	25	+1	102.7%
営業利益率	4.6%	4.4%	▲0.2pt	—

主な増減要因

売上収益 +43億円

- 【+】
- 医療サービスの取り扱い増 ●◆
 - データセンター向け非常用発電機の工事が進展 ★

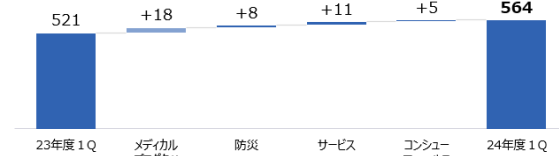
営業利益 +1億円

- 【+】
- 医療用ガスの価格改定 ●
 - 医療機器の販売増 ●
- 【-】
- 物流・人件費増 ■

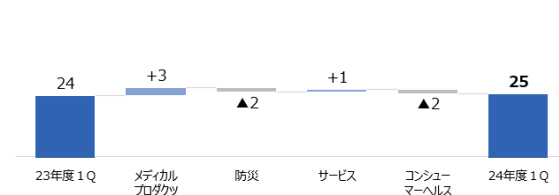
ユニット別増減

(単位：億円)

売上収益



営業利益



●メディカルプロダクツ ★防災 ◆サービス ■コンシューマーヘルス

© AIR WATER INC. | 13

ヘルス&セーフティの売上収益は564億円で43億円の増収、営業利益は25億円で1億円の増益となりました。

メディカルプロダクツ事業は、医療機器や介護用シャワー入浴装置の販売が増加したことに加え、医療用酸素の価格改定効果が寄与し、順調に推移しました。

防災事業は、データセンター向け工事案件の獲得に努めており、今期は海外子会社のパワーパートナーズ社と連携した国内データセンター向けの新規プロジェクトが進展しています。売上収益は、こうした工事案件が増加したものの、利益面では、昨年同期に高利益率だった大型の工事案件が完工したことにより剥落したことから、前年同期比では減益となりました。

サービス事業は、病院業務のアウトソーシング先として院内の物品管理業務の取り扱いが増加したことに加え、消耗品の販売も伸長しました。

コンシューマーヘルス事業は、注射針、エアゾール、化粧品などの受託製造は前年同期並みで推移しましたが、為替、物流、人件費など製造にかかるコスト上昇の影響を受けました。

(単位：億円)	23年度1Q	24年度1Q	増減	前期比
売上収益	383	426	+43	111.2%
営業利益	14	17	+4	127.8%
営業利益率	3.5%	4.1%	+0.5pt	—

主な増減要因

売上収益 +43億円

- 【+】
- ・ 丸進青果㈱の新規連結効果 ◆
 - ・ 野菜・果実系飲料等の受託増 ★
 - ・ 冷凍野菜（ブロッコリー）の販売増 ●

営業利益 +4億円

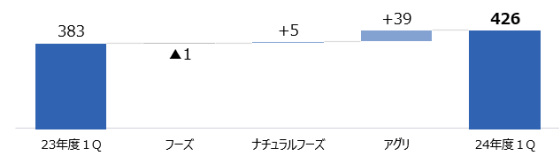
- 【+】
- ・ 丸進青果㈱の新規連結効果 ◆
 - ・ 野菜・果実系飲料等の受託増 ★
 - ・ 冷凍野菜（ブロッコリー）の販売増 ●
- 【-】
- ・ 食肉をはじめとした原材料コスト増 ●

●フーズ ★ナチュラルフーズ ◆アグリ

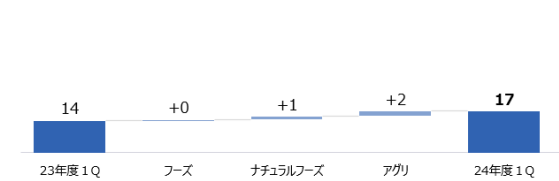
ユニット別増減

(単位：億円)

売上収益



営業利益



© AIR WATER INC. | 14

アグリ&フーズの売上収益は426億円で43億円の増収、営業利益は17億円で4億円の増益となりました。

フーズ事業は、食肉などの原材料価格が上昇した影響を受けたものの、冷凍ブロッコリーなどの販売が堅調に推移しました。

ナチュラルフーズ事業は、夏場の需要増に備え、野菜・果実系飲料の受託製造が好調に推移しました。

アグリ事業は、九州で青果仲卸事業を展開する丸進青果の新規連結効果があり、事業全体としても増収増益となりました。

(単位：億円)	23年度1Q	24年度1Q	増減	前期比
売上収益	441	537	+96	121.9%
営業利益	8	21	+13	253.7%
営業利益率	1.8%	3.9%	+2.0pt	—

主な増減要因

売上収益 +96億円

- 【+】
- ・ 北米分野における新規連結効果 ◆
 - ・ 貨物輸送および食品輸送の荷扱量増 ●
 - ・ 苅田バイオマス発電所の稼働 ★
 - ・ 九州における建設工事増 ▼

営業利益 +13億円

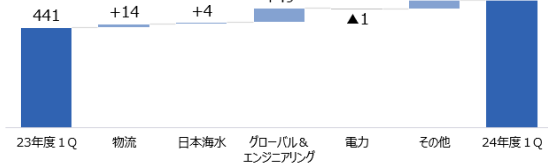
- 【+】
- ・ 北米分野における新規連結効果 ◆
 - ・ 貨物輸送および食品輸送の荷扱量増 ●
 - ・ 高出力UPS事業の拡大 ◆

●物流 ★日本海水 ◆グローバル&エンジニアリング ■電力 ▼その他

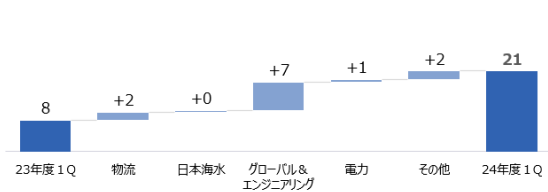
ユニット別増減

(単位：億円)

売上収益



営業利益



© AIR WATER INC. | 15

その他事業の売上収益は537億円で96億円の増収、営業利益は21億円で13億円の増益となりました。

物流事業は、一般貨物輸送及び食品物流が堅調に推移したことに加え、受託料金適正化の取り組みを進めたことで、順調に推移しました。

日本海水は、業務用塩の販売量が回復したことに加え、2023年8月に営業運転を開始した苅田バイオマス発電所の稼働が売上収益に貢献しました。

電力事業は、小名浜バイオマス発電所が安定稼働を継続し、前年同期並みとなりました。

グローバル&エンジニアリング事業におけるインドでの産業ガス分野は、鉄鋼向けオンサイトガス供給とタンクローリー・シリンダーによるガス供給ともに堅調に推移しました。北米での産業ガス分野は、前年度に新規連結したガスディストリビューター2社が収益貢献しており、グローバル&エンジニアリングの増収増益分の過半を占めています。また、高出力UPS（無停電電源装置）分野は、データセンター市場の成長に伴い、堅調に推移しました。

これらの結果、その他の事業は売上収益・営業利益とも前年同期を上回りました。

以上をもちまして、各事業セグメントの業績説明は終了となります。

(単位：億円)		2024年3月	2024年6月	増減	
				金額	率
	流動資産	4,494	4,333	▲160	96.4%
	非流動資産	7,733	7,981	+247	103.2%
	資産合計	12,227	12,314	+87	100.7%
	流動負債	3,175	3,105	▲70	97.8%
	非流動負債	3,967	3,974	+7	100.2%
	負債合計	7,142	7,080	▲62	99.1%
	資本合計	5,085	5,234	+149	102.9%
	負債・資本合計	12,227	12,314	+87	100.7%
	親会社の所有者に帰属する持分	4,886	5,040		
	有利子負債	4,433	4,480		
	親会社所有者帰属持分比率	40.0%	40.9%		
	ネットD/Eレシオ ※	0.77倍	0.76倍		

※「ネット有利子負債」÷「親会社の所有者に帰属する持分」

続いて、連結財政状態計算書についてです。

連結財政資産合計は 87 億円増加し、1 兆 2,314 億円となりました。

円安による為替評価影響、固定資産投資等により増加しております。

負債は、営業債減少等により 62 億円減少しました。

親会社所有者帰属持分比率は 40.9%に微増、ネットD Eレシオは 0.76 倍と微減となりました。

(単位：億円)	23年度 1 Q	24年度 1 Q	増減
営業キャッシュ・フロー (①)	131	257	+126
投資キャッシュ・フロー (②)	▲193	▲176	+17
財務キャッシュ・フロー (③)	▲79	▲106	▲28
キャッシュ・フロー合計 (①+②+③)	▲140	▲25	+115
現金及び現金同等物の四半期末残高	528	632	+105
フリーキャッシュ・フロー (①+②)	▲62	81	+143

次のページをご覧ください。キャッシュ・フローの状況です。

営業キャッシュ・フローは、前年を大幅に上回り 257 億円となりました。

運転資本の改善が大きく寄与しました。

また、投資キャッシュ・フローは、設備投資などにより、マイナス 176 億円となりました。

フリー・キャッシュ・フローは、81 億円とプラスに転じました。

前回公表数値からの修正なし

(単位：億円)	2023年度 (実績)	2024年度 (予想)	増減		2024年度 第2四半期累計 (予想)
			金額	前年比	
売上収益	10,245	11,000	+755	107.4%	5,100
営業利益	683	780	+97	114.2%	330
税引前利益	667	760	+93	113.9%	320
親会社の所有者に帰属する持分	444	500	+56	112.7%	210
営業利益率	6.7%	7.1%			
基本的 1 株当たり当期利益	194.69円	218.88円			
年間配当額	64.00円	64.00円			
設備投資額	733	940			

続きまして、2024 年度の通期業績予想についてご説明いたします。

前回公表数値からの修正はございません。

売上収益 1 兆 1,000 億円、営業利益 780 億円の増収増益を計画しております。

年度後半を見込んでいた半導体市況の回復が遅れる見込みであり、日米金利政策の転換による為替の急激な変動等、全体としては不透明な事業環境ではあるものの、産業ガスの価格マネジメントや事業構造改革などが進展すること、成長領域である海外事業などの取り組みが進捗する見込みです。

		2023年度 (実績)	2024年度 (予想)	増減		
				金額	率	
 デジタル&インダストリー	売上収益	3,394	3,600	+206	106.1%	
	営業利益	336	380	+44	113.2%	
 エネルギーソリューション	売上収益	666	700	+34	105.1%	
	営業利益	40	45	+5	111.3%	
 ヘルス&セーフティー	売上収益	2,309	2,450	+141	106.1%	
	営業利益	151	170	+19	112.7%	
 アグリ&フーズ	売上収益	1,626	1,800	+174	110.7%	
	営業利益	69	80	+11	115.7%	
 その他 (物流・日本海水・グローバル&エンジニア リング・電力・その他)	売上収益	2,251	2,450	+199	108.9%	
	営業利益	108	133	+25	123.1%	
(調整額)		営業利益	▲21	▲28	▲7	－
合 計	売上収益	10,245	11,000	+755	107.4%	
	営業利益	683	780	+97	114.2%	

セグメント別の業績予想です。

前回公表数値から変更ございません。

以上をもちまして、第 1 四半期決算のご説明を終了させていただきます。